

第1回 東北大大学院教授

伊藤 貞嘉さん＝1971年度卒

「質実剛健」 人生の礎に

「母校をたずねる」は今月から、宮城県古川高校（大崎市古川南町）を連載します。「古高（ふるこう）」が愛称の伝統校で、今年創立121年です。同窓会長の東北大大学院医学系研究科内科病態学講座腎・高血圧・内分泌学分野教授、伊藤貞嘉さん（64）＝1971年度卒＝は「質実剛健」の校風が人生の礎となったと振り返ります。



古高は心の古里というか、人生の出発点です。「質実剛健」が校訓で、「バンカラ」の校風がとても好きです。バンカラはハイカラの対になる言葉です。表を飾ってもしようがない、本物でないにだめだ、がバンカラです。時代の潮流に乗らずにやるということだと思います。

下駄履き、手ぬぐいを下げ……。服装だけでなく、何をすることもみんなたくましい感じでした。みんな、なれ合いではなく「こうあるべきだ」と、本当にやるべきことをや

るという考えでした。やはり古高生としてのプライドがあったと思います。勉強もさせられるのではなく、自分でやるという雰囲気がありました。

制服をやめようと学生が一生懸命ディスカッションした時代です。「仮に自由化され、何を着たとしても、規律は自分たちでちゃんと守るんだ」と生徒の議論はまとまっていきました。先生方も一緒にちゃんと議論してくれました。そして、2年生の時の臨時生徒大会で「服装の自由化」が可決され、職員会議で新しい「服装指導方針」が決められました。駒板泰一校長は「生徒を信じる」と、保護者宛ての手紙を出しました。でも、自由化しても制服以外を着てくる人は少なかったですね。僕もそのまま、学ラン（学生服）に帽子で通学しました。

他人には言いませんでしたが、医者になりたいと中学時代から思っていました。それが古高に行こうという一つの大きな動機でした。2年の秋に古高近くに下宿するまでは自転車で30分走って駅に行き、列車を2回乗り換えて2時間ぐらいかけて通いました。

初めは僕の学力では医学部は無理かと思いましたが、いい先生と出会えました。数学の加藤俊一郎先生は難しい問題を質問に行くと教えてくれた。他の先生も勉強しようとする生徒にはいつでも対応してくれました。成績がだんだん良くなって3年の時には医学部を受験しましたが、（東北大とは別の）国立2校を落ちました。すると担任の伊藤紀彦先生

から「ばかやろう。来年はちゃんと東北大に入れ」と言われました。半年ほど自宅浪人したんですが、ちょっと不安になり仙台に出ました。しかし、周りがうるさくて「困った」と言ったら、伊藤先生は「じゃあ、俺の自宅の2階に來い。下宿代も何もいらぬ」と住まわせてもらい、あまり得意でなかつた現代文も教えてもらいました。スランプになると「分かつた。大丈夫だろうが今度落ちたら東大だな」。失敗したら上に行けということですから。常に上を目指して頑張る精神は校歌にも「高きを慕う我が胸」としてあります。

大学を卒業したら古里で開業したいと考えていたので、教授になるとは思っておりませんでした。古高のバンカラは僕の人生の根底をずっと流れています。

いとう・さだよし

1954年、旧米山町（現登米市）生まれ。東北大医学部卒。ヘンリーフォード病院（米デトロイト）内科高血圧研究部門主任研究員などを経て、97年から東北大医学部第二内科教授、99年の組織改編で現職。2012～18年東北大理事。腎臓が食塩摂取量を感じて、血圧や血液の成分を調整する仕組みを世界で初めて実証するなどの研究成果により、米高血圧学会最高の栄誉賞をはじめ多くの賞を受ける。



古高小史①

県北最古の高校 校訓は変遷

古川高は、1897（明治30）年に宮城県尋常中志田郡立分校として創立され、旧制の県第三中、古川中などと改称されてきた。県北最古の高校として伝統を誇る一方、校訓は時代を映し、変遷した。

今の校訓は、質実剛健、学問尊重、自主自律の三つ。このうち質実剛健については、記念誌「古高の七十年」（1967年）は、13（大正2）年の「寄宿舎規則」にある「質実剛健の氣風を養い」を事実上の校訓の始まりと位置づける。38年の文書では、誠実勤勉、規律節制、質実剛健の3項を「生徒心得」としていたが、「（国が）臨戦体制を整えて行く」（同誌）39年にいったん削除された。

同高教諭で同窓会事務局担当の遠藤直樹さん（51）＝85年度卒＝は「在校当時、校訓に『学問尊重』はなかつた」と証言する。戦後の長い間、質実剛健と自主自律こそが校訓であり、「古高」イメージそのものだったようだ。前同窓会長で仙台二高校長などを歴任した渡辺義之さん（78）＝58年度卒＝は「古高生は無意識のうちに校訓を体現する『バンカラ』な高校生活を送った」と振り返る。



古川高の校舎には、グラウンドに呼びかけるように校訓が掲げられている